

児童生徒の化学物質による健康問題が疑われる事例への対応

児童生徒等から化学物質に起因する健康問題が疑われる訴えや相談があった場合は、体調不良症状発生の経緯を確認するとともに、必要に応じ、学校医や学校薬剤師の指導助言を受け、原因を調査するとともに、環境衛生検査を行う。また、原因と思われる事象への対応後症状の緩和が見られない場合は、専門医療機関の受診を勧める。

(健康状態の確認事項例) <参考： 資料 問診票 >

症 状 の 問 診	以前からあった症状 以前からあった症状と建物との関係（ありそう・なさそう） 発症の時期（日時） 過去のアレルギー疾患歴 現在の症状 現在の症状と建物との関係（ありそう・なさそう）
-----------------------	--

(原因調査事例)

校内で工事や新たな学校用備品の搬入があった場合

- 工事箇所や新たな備品搬入教室で不快な刺激や臭いを感じないか。
- 工事箇所や新たな備品搬入教室近辺や中で体調不良の症状が発生するか。
- また、その場所を離れると症状が軽減、又は消失するか。

工事や学校用備品搬入を行っていない場合で、校内の他の施設も原因と考えられない場合

- 学校周辺で揮発性化学物質を放散させる何らかの事象がなかったか
(例：建設工事、排気ガス、農薬散布、野焼き等)
- 体調不良等の訴えの前に教室の空気環境に影響を与える作業等はなかったか
(殺虫剤等の薬剤散布、床ワックスの塗布)
- 授業等で、症状発生につながる化学物質を放散させる教材等の使用はなかったか
- 児童生徒等の個人所有物や嗜好品等で症状発生につながる化学物質を放散させるものはないか(文具、鞆、おもちゃ、タバコ、化粧品など)

日常点検の実施状況確認

- 工事箇所や新たな備品搬入教室等で不快な刺激や臭いがなかったか
- 教室等の換気は十分に行われていたか

環境検査の結果点検及び実施

- 教室等の空気環境は学校環境衛生の基準で定める基準値を超えてないか
- 外気は学校環境衛生の基準で定める基準値を超えてないか

その他

- 学校を離れても症状が緩和・消失しない場合は、学校以外にその原因があることも考えられるので、住居環境や体調等について何らかの問題がないか専門医や保健所等に相談するよう勧める。